

蒲生干潟周辺の津波の高さの推定

概要

4月13日に蒲生周辺の津波の被害を調査した。本稿では津波の高さについて報告する。GPSを併用して各地で測定したが、GPSでは安定した値を得ることができなかった。本稿では生物への影響を主として考慮するため地面からの高さについて言及する。その結果、蒲生周辺では地面から3～4.5mの海水が押し寄せたと推測された。

調査地と調査方法

仙台市宮城野区高砂周辺から仙台港埠頭周辺まで自動車を走行させながら適宜写真を撮影して情報収集した。蒲生に最も近い中野地区を踏査し、津波の



Fig.2 建物に残された津波の痕跡

際に記録されたとと思われる痕跡の高さを測定した。また住宅地に植栽された樹木の個葉の変色程度から津波の高さを算出した。

結果と考察

Fig.1は中野小学校北側に位置する建物に残された津波の高さを示している。地面から約4.3mの高さであった。Fig.2は暗色系の壁面であったことから、より詳細な痕跡を読み取ることができた。最も高い部分が約4.2mとなり、その下部に7本の津波の高さを示す痕跡を読み取ることができた。このことから津波が一度ではなく数回にわたって一定の時間滞留していたことを示すものと推測された。この記録からは、少なくとも7回は確認できた。

植栽に与えた塩害も同時に調査を行ったが、隣接している場所であっても全ての個葉が変色している個体と、個葉に全く変色の見られない個体もあり、今後の検討が必要である。

微妙な立地環境の違いが影響している可能性がある。



Fig.1 建物に残された津波の痕跡